

平成22年度 家庭総合 のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	家庭総合	単位数	2	履修学年・区分	2学年(1・2学年各2単位の分割履修)
使用する教科書	新家庭総合～ともに生きる 暮らしをつくる～ (教育図書)				
副教材等	なし				

2 学習目標

- ・身近な生活の中から課題を見出し、解決に向けて主体的に取り組める能力を養います。
- ・家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけます。

3 学習方法

- ①教科書や補助資料から基礎的知識を学ぶ。
- ②調理実習や被服製作実習を通し、基礎的技術を身につける。
- ③習得した基礎的な知識・技術を実験や体験を通し、科学的・理論的に学ぶ。
- ④視聴覚教材や統計資料・新聞等から身近な課題を考える。

4 学習計画

学期	学習内容(单元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	<p>《单元》暮らしのなかの「食」</p> <p>①食生活について考えよう ②栄養と食品 ③食品の選択と取り扱い ④献立と調理 ⑤これからの食生活と環境 ⑥食の文化と伝承</p> <p>※家庭科技術検定食物調理4級受検対策</p> <p>(期末考査)</p>	<p>《ねらい》</p> <p>豊かな食生活を実現させるため、栄養・食品・調理などについて科学的に理解させ、必要な技術を習得する。また、食文化の関心を深めるとともに、環境に配慮した食生活に実現を目指す。</p> <p>《具体的活動》</p> <p>①講義 ②講義 ③調べ学習 ④調べ学習・講義・実習 ⑤実習 ⑥調べ学習・講義 ※実技・講義</p>	<p>①健康によい食習慣を身に付けることに興味を持つことができたか。</p> <p>②五大栄養素の働きとその食品について理解することができたか。</p> <p>③食品に関する正しい知識を身に付け、安全な食生活を実践しようとすることができたか。</p> <p>④食事摂取基準を理解し、バランスのよい一日の献立を考えることができたか。また、調理技術の習得、食の安全と衛生への関心を持ち、実習に取り組むことができたか。</p> <p>⑤生活者として世界的な食糧事情を理解し、環境に配慮した食の意識を持つことができたか。</p> <p>⑥日本の食文化を調べ、伝承しようとする態度を身に付けることができたか。</p>
第2学期	<p>《单元》人の一生と家族</p> <p>①自分らしい生き方を考えよう ②家族について考えよう ③家族・家庭にかかわる法律を知ろう</p> <p>《单元》高齢者とともに</p> <p>①高齢者について考えよう ②高齢者とふれ合おう ③高齢社会と高齢者福祉を考えよう</p> <p>《单元》人のつながりと福祉</p> <p>①私たちの暮らしと社会福祉</p>	<p>《ねらい》</p> <p>人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、社会とのつながりを理解させる。</p> <p>《具体的活動》</p> <p>①講義 ②実習 ③調べ学習・講義</p> <p>《ねらい》</p> <p>高齢者に対する正しい認識から、介護の基礎など体験的な学びと役割を知る。</p> <p>《具体的活動》</p> <p>①講義・ディベート ②講義・実習 ③調べ学習・講義</p> <p>《ねらい》</p> <p>暮らしを支える福祉のあり方を理解する。</p>	<p>①家族に関心を持ち、生き方を考えながら、自分のライフコースを描けたか。</p> <p>②人の一生から家族を考え、家族の在り方に関心を持つことができたか。</p> <p>③家族に関する法律を理解し、将来の設計に役立てようとすることができたか。</p> <p>①高齢者の特徴を理解し、同じ目線で対応しようとする態度を身に付けることができたか。</p> <p>②高齢者の立場で日常介助を考えることができたか。</p> <p>③高齢者に対する実態や課題を考え、高齢社会を理解することができたか。</p> <p>①社会福祉の実態を知り、社会保障制度について理解することができたか。</p>

	<p>《单元》子どもとともに ①保育について考えよう ②子どものすこやかな育ちを知ろう ③子どものくらしと親のかかわり ④子どもの福祉を考えよう</p> <p>(期末考査)</p>	<p>《具体的活動》 ①調べ学習・講義</p> <p>《ねらい》 子どもの発達、保育、福祉をと おして、健全な発達を支える 親や社会の役割を理解させ るとともに、保育への関心を 深める。</p> <p>《具体的活動》 ①調べ学習 ②講義・実習 ③調べ学習・講義 ④調べ学習・講義</p>	<p>①命の尊さから出産を見つめ、 保育に関する事に理解を深める ことができたか。 ②子どもの成長過程の理解を深め、 知識を生かそうとすることができ たか。 ③子どもに関心を持ち、親の役割 と社会の関わりについて理解する ことができたか。 ④子どもの福祉について、少子高 齢社会の側面から理解することが できたか。</p>
第 3 学 期	<p>《单元》快適な生活と環境 ①私たちのくらしと環境問題 ②持続可能な社会を目指して ③私たちができること</p> <p>《单元》くらしのなかの 「文化」 ①生活文化について考えよう</p> <p>《单元》ホームプロジェクト</p> <p>(期末考査)</p>	<p>《ねらい》 家庭経済や消費生活の基礎的 な知識を習得し、持続可能な 社会を目指した消費行動へと つなげる。</p> <p>《具体的活動》 ①講義・ディベート ②調べ学習・講義 ③調べ学習・講義・実習</p> <p>《ねらい》 生活にある文化を見直す。</p> <p>《具体的活動》 ①調べ学習</p> <p>《ねらい》 二年間の学習から課題を見つ け生活に生かす。</p> <p>《具体的活動》 ①課題解決学習</p>	<p>①くらしの中にある環境問題に対 して、自分のこととして取り組む ことができたか。 ②持続可能な社会とは何かを考え、 行動に移そうとすることができ たか。 ③できることを明確にし、環境問 題を理解することができたか。</p> <p>①生活文化に関心を持ち、現代に 合う取り組み方を考えることが できたか。</p> <p>①生活課題を主体的に見出し、課 題解決に向けて、学習によって習 得した知識を適切に活用できたか。</p>

5 学習評価

<p>(1) 評価の観点及び内容について 以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとめりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。</p> <p>《評価の観点及び内容》</p> <p>1 「関心・意欲・態度」 家庭や地域の生活に関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけているか。</p> <p>2 「思考・判断」 家庭や地域の生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけているか。</p> <p>3 「技能・表現」 家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけているか。</p> <p>4 「知識・理解」 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけているか。</p> <p>(2) 評価方法について 具体的な評価方法として以下の三つの項目を数値化し、五段階で評価します。</p> <p>1 「定期考査」 各学期末、計3回実施。(70%)</p> <p>2 「提出物」 ノート、自己評価カード、作品、(20%)</p> <p>3 「授業態度」 主体的・意欲的な取り組みが見られたか。(10%)</p>
--